

ニュースレター

いりおもての森から

林野庁 九州森林管理局
西表森林環境保全ふれあいセンター
平成22年4月発行 №24号



ルリハコベ

「ガイド講習会」を開催

2月18日（木）、西表島大原の竹富町離島振興総合センターにおいて、平成22年度木道（※）利用希望者を対象とした沖縄森林管理署及び当センター主催の「ガイド講習会」を昼の部（受講者24名（15～17時））と夜の部（受講者6名（18～20時））の2回に分けて開催しました。

今回は、①沖縄森林管理署（遠山流域管理調整官）から「西表島国有林の保全活動」について、②環境省西表自然保護官事務所（刈部自然保護官）から「外来生物の現状」について、③沖縄県八重山農林水産振興センター（真鍋主任）から「西表島の保安林」について、④竹富町（通事主事）から「竹富町の保全と利用の進め方」について、事務局からは「木道を利用する際の留意事項」、「イリオモテヤマネコの痕跡及びガイドによるモニタリング状況等」について説明しました。

最後に、安全に留意して森林環境教育及び希少野生動植物のモニタリングの実施をお願いしました。受講者には、沖縄森林管理署長の木道利用許可証を後日交付しました。



ガイド講習会の様子



沖縄森林管理署による説明



環境省による説明



木道



沖縄県八重山農林水産振興センターによる説明



竹富町役場による説明

※木道

西表島東部の西表亜熱帯樹木展示林からサガリバナ林、マングローブ林を抜け仲間川の支流北船付川に至るルートに、西表島の森林環境教育の拠点施設として木道（延長150m）を整備。

沖縄自然再生ブロック会議に出席

2月9日（火）、環境省那覇自然環境事務所の主催により、標記の会議が豊見城市の環境省漫湖水鳥・湿地センターで開催されました。

この会議は、沖縄県や関係省庁（環境省、農林水産省及び国土交通省）の各地方出先機関において、自然再生窓口担当者のネットワーク構築の確認と各地方出先機関が自然再生について連携した取り組みを推進することを目的として年1回開催されているものです。

会議では、沖縄ブロックにおける自然再生関連事業の実施状況について、各地方出先機関等の担当者より説明があり、それらに対し質疑応答などがありました。



沖縄自然再生ブロック会議



現地検討会の様子

現地視察では、国指定の漫湖鳥獣保護区における渡り性水鳥の減少、並びにその対策事業について説明がありました。

平成22年2月、平成22年3月期ヒナイ川、西田川の利用状況調査報告

ヒナイ川の利用状況調査（毎月1回）を2月19日（金）、3月18日（木）に、西田川の利用状況調査（2ヶ月に1回）を2月26日（金）にそれぞれ実施しました。

ヒナイ川では、2月期はカヌーツアー5組、利用者数27名（ガイド含む）、ガイドを除く利用者は男性7名、女性14名でした。3月期はカヌーツアーは13組で、利用者数は63名（ガイド含む）、ガイドを除く利用者は男性22名、女性26名でした。2、3月期の年齢層では未就学児から熟年世代まで幅広く、3月期では米国からの旅行者3名もいました。

一方、西田川ではカヌーツアー3組、大学のカヌー・サイクリング同好会1組の計4組、利用者数37名（ガイド含む）、ガイドを除く利用者は男性22名、女性10名、年齢層では大学生を含む若い方々でした。

毎月実施しているヒナイ川におけるこの1年間の西表島におけるカヌーツアーの利用は24業者152回になりました。

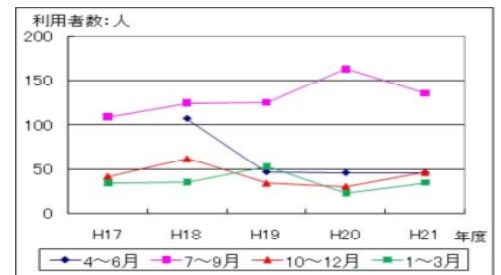
21年度の利用状況を20年度と比較しますと、4～6月は横ばい、7～9月が減少、10～12月及び1～3月は微増となっています。



サンガラの滝
（西田川：2月）



船着場
（ヒナイ川：3月）



年度別利用者数の推移
（ヒナイ川）

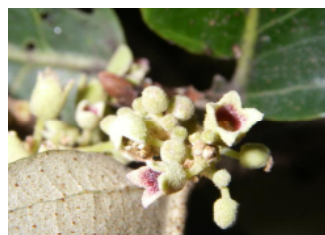
ヒナイ川、西田川周辺の植物



サクララン
西田川（2009.6.12）



アコウ
西田川（2009.6.12）



サキシマスオウノキ
ヒナイ川（2009.6.9）



ヤエヤマノボタン
ヒナイ川（2008.6.12）

漂流・漂着ゴミの実態調査 (2・3月分)

漂流・漂着ゴミの実態調査を2月4日(木)、3月5日(金)に実施しました。

平成21年4月に開始した漂流・漂着ゴミの実態調査は、3月5日(金)で丸一年となりました。一年の時間の流れは速いものですが、同じ流れでも海を漂ってやってくる厄介な代物もあります。

一年間を通して目視で漂着ゴミの量が多いのは、ユチン地区と船浦地区と思われます。漂着ゴミの内容は、ペットボトル、空き瓶、ガスボンベ、電球、蛍光管、プラスチックや発泡スチロールの浮き球、漁具、ロープ、タイヤ、電線等を地下に敷設する際のゴム管(?), 消火器(?), 200リットルのドラム缶、帽子、靴、サンダルなど様々なものが漂着し、砂に埋もれ、オヒルギ等の立木に絡みつки、ナイロン袋のように軽いものは風に飛ばされ海岸からさらに内陸部に移動しています。海岸林への影響としては、ロープや漁具が絡みつки倒木に至っているものも見られます。



大量のペットボトル
(船浦湾外側地区：2月)



大量のペットボトル
(ユチン地区：2月)



漁具が絡みつきた状態
(船浦湾外側地区：3月)



ガスボンベ(?)
(ユチン地区：3月)

1年間の漂着ゴミのいろいろな種類



錆びたドラム缶
(6月)



イカダ(?)
(8月)



蛍光管
(11月)



風船
(2月)

船浦ニッパヤシのモニタリングを実施

3月15～16日、国指定の天然記念物で、船浦に自生しているニッパヤシの樹勢の状況把握、葉数及び葉長などのモニタリングを実施しました。

モニタリングの結果は、昨年(2009年)の3月以降1株当たりの平均葉数は1葉程度増加しており、平均葉長も微増する結果となりました。

また、個体毎の生育位置を5年ぶりに実施したところ、ほとんどの個体が移動していることがわかりました。さらに、当初の調査では35株でしたが、この内、4株が分株していることを確認しました。この結果については、報告書として取りまとめることとしています。



分株し2つの個体になった
ニッパヤシの株



ニッパヤシの葉長調査



陸域のニッパヤシ

西表島の樹木

今回は、西表島の海岸近くに生育している植物を紹介します。
モンパノキ（ムラサキ科 スナビキソウ属）
（別名：ハママムラサキノキ）

学名：*Messerschmidia argentea*

分布／琉球、台湾、オーストラリアなど

生育環境・形態など

海岸に生え、高さ10mくらいに達するものもある常緑の小高木です。葉は多肉質で枝先に集まってつき、銀灰色の長い毛が密生しています。枝先に白い花が集まって咲きます。木材は漁師の海中メガネの枠材として使われました。



樹形：2010.01.07（ナイヌ浜）



花と葉：2007.04.28（マーレー浜）



花：2010.02.23（マーレー浜）

転出者のお知らせ

平成22年4月1日付けで1名が転出します。

*** お世話になりました ***

元自然再生指導官 濱田 辰広（担当：自然再生）

転出先：九州森林管理局 鹿児島森林管理署溝辺森林事務所（霧島市） 首席森林官



平成20年4月から平成22年3月までの2年間、地域の方々には大変お世話になりました。特に、大原中学校や船浦中学校の西表島横断では、生徒や先生方また、父兄の方々と一緒に無事横断することができて良い思い出になりました。

マングローブ林などのモニタリング調査では、先輩達が汗水流して取り続けてきた調査データを活かし、正確なデータ収集に繋げることができ感謝申し上げます。

最後に、この自然豊かな西表島の環境が、多くの方々の力により、今以上に保全され、後世に伝えていってほしいと思っています。

林野庁 九州森林管理局 西表森林環境保全ふれあいセンター

〒907-0004 石垣市字登野城55-4 石垣地方合同庁舎内

TEL:0980-88-0747 FAX:0980-83-7108 URL: <http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/huresen/huresentop.htm>